城北地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年１１月２６日（水）　１９：００～２０：４５
２　会　場　城北地区公民館
３　出席者　地元出席者　　９４名
市側出席者　　１１名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、尾室教育委員会事務局長、高橋秘書課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　「地域でのまちづくりの取組状況」についての報告
（城北まちづくり協議会事務局）　※スクリーンに基づき説明
城北まちづくり協議会は、平成２１年１月に発足し、規約並びに役員を承認して名称を決定しました。そして発足して２年後の平成２３年３月には、「元気で、楽しく、心地よく、住んでよかったと実感できる城北！」とのスローガンを掲げた「城北まちづくり　いきいきプラン」の冊子を全戸配布しました。
城北まちづくり協議会の設立に伴い、既設の「地域づくり懇話会」及び「教育・福祉関連特区推進協議会」を解消しましたが、組織として高く評価されていたため、並行的位置づけとしてスタートしました。平成２５年には、協議会としてもっと地域で活発に活動していこうとの思いから、「総務広報部会」、「福祉健康部会」、「環境安全部会」、「文化交流部会」の４つの専門部会を置くよう組織変更し、新体制で動き始めました。そして、この４つの部会に担当副会長１名を置き、部長、副部長を各１名、その下に各町内会長、各種団体長、推薦委員の皆様に入っていただいてご協力いただくとともに、各部会に公民館職員を１名事務局として配置し、一体となって諸活動に取り組んでいます。また、専門部会ごとに、今後の検討事項内容として「城北まちづくり　いきいきプラン」を作成し、取り組み課題に基づいて、各部会で取り組んできました。
「総務広報部会」は、平成２５年度に、地区住民に城北愛と絆を深めるために城北地区のシンボルマークを募集しました。応募総数は、小学生１７作品、一般の方から３３作品で、合計５０作品の応募をいただきました。そして、城北小学校の先生や地域の方に審査員になっていただき、平成２５年１０月１８日に選考会を行ってシンボルマークを決定しました。最優秀賞には、当時城北小学校６年生の児童の作品が選ばれました。また、優秀賞には一般の方の応募作品から３つが選ばれ、平成２６年１月５日の新年祝賀会において表彰されました。その他にも回覧板や横断幕、スタッフジャンパー、封筒の製作を行いました。今後は、ホームページのリニューアルを目指しています。各種団体の情報を掲載し情報が迅速に届くように現在着々と制作が進んでいて、一部更新ができている部分もあります。今年度中には完成したいと考えていますので、どうぞ楽しみにしていてください。
「福祉健康部会」では、集団検診を実施しました。最近、検診を受けるために遠くの病院や市保健センターまで出向くのが大変だというご意見をお聞きします。また、新市域に

比べ受診率が低いという現状もあり、近くの公民館で受診できれば便利だとの考えから計画しました。自分の健康状態を知ることが健康の第一歩であると考え、今回は特定検診、肺がん、結核検診、大腸がん検診の項目を実施しました。受診者数は６４名で、予想を上回る結果となりました。また、後日結果説明会を行い、保健師に分かりやすく説明していただきました。来年度以降も継続していこうと考えています。

「環境安全部会」では、災害や避難に役立つ情報を表示して、安心なまちづくりを目指すために、３年計画で地区内に防災マップ看板を設置する予定です。今年度は松並１区、県道伏野覚寺線以東、松並２区、松並３区、田島、美咲町、田園町、青葉町に４枚の看板を設置します。看板には、「避難場所」、「一時避難場所」、「ＡＥＤ設置場所」、そして「こども１１０番」の場所を記載します。その他、希望する町内会には、集会所に貼れる防災マップの配布を予定しています。

最後に「文化交流部会」の活動内容を報告します。中山間地域交流として青谷町日置地区と交流を始めて今年度で３年目となり、交流事業としては最終年となりました。この３年間、日置地区とそば交流を行い、種まき、草取り、収穫、そばの実洗い、そば打ち、試食会をしました。城北地区にもお越しいただき、砂像の見学や「ふらっとサロン」での交流、史跡の探訪などをして交流を深めてきました。今年度の文化祭では特産品を出店していただき、ステージ発表では、県の無形民俗文化財に指定された「はねそ踊り」を披露していただきました。また、先日１１月２４日には、そばの収穫祭として「日置収穫祭」に参加させていただきました。「文化交流部会」ではこの他にも、「城北ふれあいクリーンウォーク」と題して、城北地域をきれいにする運動の推進をしています。ごみを拾いながら歩き、周辺の名所巡りやレクリエーションなどで参加者同士の交流を深める活動です。また、明るく元気な挨拶が飛び交う城北になるよう、挨拶運動のＰＲチラシを作成し、今年度中に全戸に配布したいと考えています。

城北まちづくり協議会は、協働のまちづくりを目指して、「元気で、楽しく、心地よく、住んでよかったと実感できる城北！」をスローガンに、今後も地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思います。

５　地域の重要課題について

１　旧警察跡地を取得しての複合施設の建設と利用活用について

＜地域課題＞

城北地区の長年の思いである複合施設の建設と２１町内人口８，６００人のコミュニティの拠点施設の充実を、ぜひとも図りたい。

ともに生きみんなで育つ　人が輝き
人を大切にするきらめく町　城北地区

「心豊かな人づくり　子育て　高齢者　障がい者の安心な暮らしづくり」に幅広く活用させてほしい。

また、第１０次総合計画の基本計画に盛り込んでほしい。

＜担当部局の所見等＞

【企画推進部】

旧鳥取警察署跡地は多様な活用が可能な貴重な用地で、本市としても公共的な利用が望ましいと考えており、地域の要望を県に伝えるとともに、市としても県に対して売却処分保留の要請をしております。

現在のところ、城北地区公民館及び城北保育園を移転新築する方向で検討しており、また、それぞれの施設の跡地利用についても検討する必要があるため、第１０次総合計画に盛り込み、進めていきたいと考えております。

（地元意見）

この件は、地域から鳥取市に対して数年前から陳情したり地区要望として要望してきたものです。

城北保育園は、朝や夕方の通園時間帯に多くの自動車が１つの道路に集中するために、混雑して大変危険な状況です。駐車場が狭いこともあり、保育園の行事等の際も保護者は大変不便を感じています。また、２階で０歳児保育が行われているなど、好ましくない保育状況が続いています。より良い保育環境の整備のためにも、ぜひ改築、整備をお願いします。

地区公民館は稼働率が大変高く、会合をしたくても空いていないことが多いため、住民にとっては使いづらい状況です。さらに、大きな会合を開きたくても大人数が入れる部屋がないため、複数の部屋を使ってＬ字型で使用しなければいけません。建物も築後かなり年数が経過していますので、安全確保のためには耐震補強が必要だと聞いています。そういう点からも、ぜひ改善をお願いしたいです。特に、地区公民館は地域の拠点であり、避難場所としての位置付けもあります。駐車場の整備も含めて、検討をお願いします。

これら２つの施設を中心とした旧鳥取警察署跡地への複合施設の建設を、ぜひ鳥取市第１０次総合計画に盛り込み早期実現を図っていただきたいと地元は強く要望しています。

（企画推進部長）

この旧鳥取警察署跡地については、多様な活用が可能な貴重な土地であると認識しており、鳥取市としても公共的な活用が望ましいと考えています。ご要望については、地域の要望として鳥取市からも鳥取県にお伝えしており、県は現在、売却処分を保留されています。先日も市の担当が県の担当課に出向き、保留されていることを再確認しています。現時点では、保育園と地区公民館を移転新築する方向で検討しています。移転新築となれば、それぞれの跡地についても総合的に考えていく必要があるため、これらを第１０次総合計画に盛り込むよう、現在策定作業を進めているところです。本格的な作業は平成２７年度になりますが、この策定作業の中で、これらについて盛り込んでいく方針でおります。

（地元意見）

基礎的なところになりますが、第１０次総合計画に盛り込む、あるいは位置づけるということはどういうことですか。第１０次総合計画の期間はいつからいつまでで、その期間内に跡地利用がきちんとされるのかどうか、よく分かりません。

（企画推進部長）

第１０次総合計画の基本計画は、平成２８年度から５か年です。総合計画に位置づけた場合、基本的にはその５年間で事業を完了するという考え方です。旧警察署跡地に関しては、大きな土地を購入し、さらに跡地のこともあるため、計画を実施しようとすれば経費の問題も出てきます。そのため、事業そのものがどのような位置づけになるのかというところを、平成２７年度に具体的に考えていきたいと思っています。そして、財政計画の中に盛り込み、平成２８年度からの５年間で完了するという方針を持って臨むことになります。

（地元意見）

保育園の新築を切にお願いしたいです。その際、計画を立てていくにあたって地元の意見を全部組み入れていくのは難しいかもしれませんが、貴重な意見を無にすることなく、しっかりと打ち合わせをしてほしいと思います。他の園で、市からの連絡がきちんと伝わらず建設スケジュールが分からないため、保護者会との打ち合わせがきちんとできなかったという話を聞きました。

（深澤市長）

今までも、保育園の新築や改修等を行っていくにあたっては、保護者の皆様にいろいろご意見を伺ってきています。まずは第１０次総合計画に位置づけさせていただき、できるだけ早い時期に、事業としての取り組みを進めさせていただきたいと思います。その節は、保護者の皆様のご意見やお考え等も十分にお伺いしながら進めたいと思っていますので、よろしくお願いします。

（地元意見）

市長を始め、市の幹部の皆さんに一言お礼を言いたいです。これは城北地区の悲願でした。何代も前の地区会長から、長い年数をかけて歴代市長にお願いしてきたことが、総合計画に入れていただけることになって、本当に喜んでいます。なぜこのようなことを言うかと言うと、前々会長が少し前に亡くなられたのですが、亡くなる前にお会いした際、苦しい息のもとで、「例のことが何とかならないものか。」と話されたのです。それで私は勝手ながら、「皆がお願いしているから楽しみにしていてください。」というようなことを言って帰りました。そのことが頭に思い浮かびましたので、お礼を言いたいと思います。

２　県道伏野覚寺の歩道拡幅等整備促進について

＜地域課題＞

平成１６年と平成１８年に要望しておりますが、一向に解決していません。鳥取砂丘の玄関口でもある狭小な歩道の危険性、高低差の危険性、歩道の危険箇所の改良等、鳥取県に強く要請してほしい。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

県道伏野覚寺線の管理者である鳥取県へ確認しました。回答は以下のとおりです。

（鳥取県回答）

地元が歩道の拡幅について強く要望されていることは認識いたしております。事業化に向けて、鳥取県としましては丸山橋の架け替え等の必要性があり重点を置いています。

丸山橋の架け替え等について、関係機関と調整中ですが、現時点で事業化の目処は立っていません。

方向性が決まり次第、事業実施に向けて手続きを進める予定です。

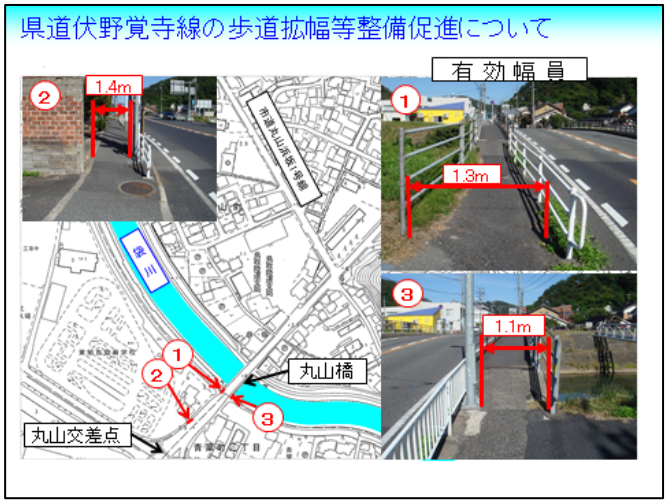
なお、沿線の歩道で狭い部分については、丸山交差点からサンマート北園店前交差点までの区間の全体計画の中で検討することとなります。

本市としましては、丸山交差点から覚寺方面への道路整備の着手については、これまでも県に要望をしてきているところです。狭小な部分の歩道の拡幅整備について継続して鳥取県に要望をしてまいります。

（地元意見）

この件はもう１０年以上前から要望していますが、一向に進展がみられません。覚寺から丸山交差点の間の歩道、特に砂丘に向かって右側の歩道は、歩道とは言いがたいほど狭く危険で、人がすれ違おうにもすれ違えないほどです。袋川にかかる丸山橋も、老朽化が進んでいて安全とは言いがたいです。高齢化社会が進み、買い物弱者が多くなっています。安心して歩行でき、押し車や車いすの人が通れるような安全な歩道にしてほしいです。幅員の確保をぜひお願いします。昨年の地区要望にも出しましたが、県の回答では、都市計画見直しのための基礎調査を検討する予定ということでした。しかし、このように悠長なことでは市民の安全は確保できないと思いますので、市からもぜひ、県に対して強く要請してほしいです。

（都市整備部長）



丸山交差点から覚寺方面への県道伏野覚寺線の歩道は、両側とも有効幅員が１ｍ前後です。歩道拡幅については、これまでも地域課題としていただいており、市としても継続して、道路管理者である鳥取県に要請をしてきたところです。今回も、改めて県にお伺いしたところ、「地元が歩道の拡幅を強く要望されていることは認識しておりますが、事業化に向けては、袋川に架かる丸山橋の架け替え等の必要があり、そちらに重点を置いています。丸山橋の架け替え等については、現在関係機関と調整をしておりますが、現時点では事業化の目途が立っていませんので、方向性が決まり次第、事業実施に向けて手続きを進める予定です。歩道の狭い部分につきましては、丸山交差点から

サンマート北園店までの区間の全体の計画を作成する中で、検討することとなります。」とのことでした。本市としても、今後も継続して県に要望していきたいと考えています。

６　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

市道西品治田園線の青葉町の交差点近くから西品治交差点までの間は、両側にけやきの木が植えてあります。一部、北町側と田島側の方は太い幹を残して伐採してあり、田園町四丁目と田園町四丁目東側の両サイドはそのままになっていますが、今後はどのような取り扱いになりますか。

（都市整備部長）

市道西品治田園線の街路樹であるけやきの剪定については、テレビの特集でも取り上げられるなど、市民の皆様から大きな反響をいただいています。ここのけやきは昭和５０年代に植えられたものです。これまでずっと、枝数を少なくし、枝幅を狭くする「枝抜き剪定」と呼ばれる方法でけやきを管理してきていますが、今では大木になり、この大木化に伴う落ち葉の処理や根上がりの発生などで、西品治田園線の周辺にお住まいの皆様に大変ご迷惑をおかけするようになりました。そこで、周辺にお住まいの皆様と協議させていただき、この度剪定を行いました。今回の剪定は、枝の途中でカットして切り詰める「切り詰め剪定」という、今までと異なる方法で実施しました。切り詰め剪定の場合、剪定の直後や、剪定して半年後の枝が発生する頃は大変見苦しくなりますが、今後５年間で、高さ８ｍ程度のコンパクトで美しいけやきにしていきたいと考えています。今年度は現在剪定が終えているところまでで終了とし、国道５３号までの残りの区間については、来年度同じ方法で整備する予定です。

なお、今回の剪定についていろいろなご質問をお受けしたため、鳥取市のホームページに掲載したり、現地に看板を設置したりして詳しい内容をお知らせしています。皆様のご理解をお願いします。

（地元意見）

私はけやき並木通りに面した所に住んでいるので、家の前に落ち葉がたくさん落ちます。カラスも巣を作ります。でも、落ち葉は業者を呼んで回収してもらっていて、市に苦情を言ったことはありません。家の庭にも大木があるので、木の苦労もとてもよく分かります。しかし、けやき並木がとてもきれいだからという理由で、お店を並木通りに移した方もおられます。ループ麒麟獅子も通ります。絵を描かれる方もありましたが、今年は木を見て驚かれ、もう写生をやめると言われました。

インターネットなどで調べると、たしかにけやきの弊害についてたくさん出てきます。しかし、今回市が実施した「切り詰め剪定」という方法で剪定した他県のけやきは、どこも復活していません。５年かけて元に戻すと説明されましたが、それは無理だと思います。私は３軒の造園業者に聞きましたが、復活しないと言われました。私自身は専門家ではないので分かりませんが、木というのは１本ずつ形が違うそうです。それなのに一斉に頭切りしてあるため、葉は出てはきてもギザギザの出方をしてしまい、元には戻らないそうです。もしも復活しなかった場合、私は同じような木を植えてほしいと思っています。

（都市整備部長）

剪定は、専門の造園業者に相談しながら実施しています。剪定の方法はいくつかありますが、最終的に切り詰め剪定を採用しました。けやき並木通りのけやきは、今まで枝数を減らすことしかしていなかったため、大木化してしまいました。本来なら、８ｍ程度の高さを保つよう適正に管理していれば良かったのですが、それをしてこなかったために一挙に剪定せざるを得なくなりました。以前剪定した部分は、少しずつ枝が出てきています。切って５年間待つのではなく、来年以降５年かけて適宜管理する予定ですので、５年間は様子を見ていただきたいと思います。

（地元意見）

今は半分が剪定されていますが、来年はこの方法に絶対反対です。もう決まったことですか。剪定は必要だと思いますが、切り方が良くないと思います。切った方のけやきはもう仕方ありませんが、残りの半分も同じような切り方をする予定ですか。商売をしておられる方で、５年間の景観はどうしてくれるのかと言っておられる方もあります。

（地元意見）

けやきはある日突然ストンと切られました。あの惨めな姿を見た時に、鳥取市はこういう弱い人を切り捨てていく市なのかと感じました。私は、城北まちづくり協議会の文化交流部会に参加しています。その部会の事業である「城北ふれあいクリーンウォーク」に子ども達を誘い、けやきの落ち葉を掃除して、自分たちの町を一緒にきれいにしようという計画を立てていました。１１月３０日にはけやき並木通りの落ち葉の掃除をすることにしています。残ったけやきは、ああいう方法での剪定はしないでほしいです。残してください。お願いします。

（都市整備部長）

来年度の剪定方法も、おそらく「切り詰め剪定」になると思います。景観も確かに大切ですが、沿線にお住いの方からのご要望を受けて実施しましたので、そのあたりもご理解ください。

（地元意見）

沿線の方の意見を聞いたということですが、どの範囲が沿線なのでしょうか。私は自治会に出ていましたが、そういう話を聞いたことは１回もありません。いつ、どの範囲の方

のご意見を聞いてあの剪定をされたのか教えてください。また、今の話を聞いていると５年で復活していない例もあるようですが、１つの業者だけではなく複数の業者に声をかけて相談したのでしょうか。私も残念な思いであれを見ていました。せっかく伸びて、景観も良く、雰囲気も良かったのになぜと思っています。

（都市整備部長）
説明の範囲と相談した業者の数については、後日、担当の道路課からお返ししたいと思います。

＜担当課補足：道路課＞
昨年度は、けやきの影響による苦情（落葉や根上等に起因するもの）が、沿線の住民及び自治会長から１０件寄せられました。
現在、特に根上がりによる排水管の破損及び道路構造物への影響が出ています。これらを解消するためには根切りの必要がありますが、そのまま根切りを行うと枝の重さによる倒木の危険があるため、今年度は頭を軽くするための剪定（枝払い）を実施しました。次年度からはけやきの状態を見ながら、根切りをしていきたいと考えています。
剪定にあたっては、剪定範囲の沿線に位置する北町、美咲町及び田島の自治会長へ連絡し了承を頂いたところです。また、剪定方法についても複数業者に相談を行って実施しました。
今後は、自治会の皆様への連絡も行いたいと考えています。また、造園建設業協会へ委託し、生育状況を確認しながら枝払いをし、コンパクトで美しい街路樹を作っていきたいと考えています。

（地元意見）
業者は入札で選ばれず、抽選で決まったと聞きました。

（都市整備部長）
業者の選定にあたっては、業者をいくつか選定して入札を実施し、入札金額が同じ場合に抽選になります。その抽選のことを言われているのではないかと思います。

＜担当課補足：道路課＞
施工業者の選定については入札を行い、同額であったため抽選となりました。

（地元意見）
都市企画課では、まちづくりで緑を増やそうといろいろな事業を実施していると思います。その一方で道路課は、安全が大事だとはいえ道路のことしか考えていません。一方で緑を増やそうとし一方で木を切るというのは、矛盾していると思います。

（都市整備部長）
本市では「鳥取市緑の基本計画」を策定し、都市公園などに緑を増やす施策をしていま

す。しかし道路は、緑の景観だけでなく、沿線の方の安全安心や通行される方の通行の安全を確保する必要があります。今回は、その兼ね合いで切りました。今後しっかり管理していきたいと思いますので、５年間は様子を見ていただきたいと思います。

（地元意見）

こういう質問が出るということは、自治会などに相談がしてほしいということです。あの並木通りは城北の宝で、皆がけやきを大事にしています。実は、下水管を破損させるからけやきを引き抜こうとしたが、育ちすぎて一度で引き抜けないので、今回ひとまず枝を切ったのだという物騒な噂まで出たほどです。引き抜かれるのではないかと思って心配している人は、今も何人かいると思います。残った部分を剪定する時には黙ってしないようにしてください。町内会長にでも、計画を話してから実施してほしいです。また、剪定したけやきについても、一応町内会長に話をしてもらえればと思います。

（深澤市長）

今まで以上に丁寧に説明させていただき、ご理解をいただいて進めていきたいと思います。けやきの根が張って舗装や歩道がもち上がってしまい、非常に危険で支障のある状況になっていることは、私も担当課から聞いていました。そのため、これは何とかしなければいけないということで剪定を実施したのですが、その手順が少し十分でなかったと今日お伺いしましたので、残りの剪定の対応も含め、今一度しっかりと地元の皆様とお話をさせていただきたいと思います。そして、今後の剪定の方法や管理も含めて対応させていただきたいと思います。

＜担当課補足：道路課＞

他都市では、けやきの枝が折れ歩行者に当たり大事故となった例も聞いており、剪定は道路の安全確保のため、やむを得ないことだと考えています。

今後は、危険性等を自治会へ十分説明し、対応したいと考えています。

なお、平成２７年２月１３日に、城北地区内の町内会長様対象の説明会を開催しました。

（地元意見）

今年、放課後児童クラブの会長をして現状を初めて知ったのですが、定員がいっぱいです。あまりにも子どもの数が多すぎるため、去年クラブを分割し、小学校の１室を借りて運営していますが、城北地区は今もまだ子どもの数が増え続けています。部屋も狭いため、このままでは支障をきたしてくると思います。地域課題の、「旧警察跡地の取得と複合施設の建設、利用活用」にも付随すると思いますが、早期に地区公民館と保育園を移転し、地区公民館の跡地を砂山放課後児童クラブとして利用させていただきたいと切実に思っています。市も現状を把握していると思いますが、どのような見解かお聞かせください。

（教育委員会事務局長）

城北小学校の放課後児童クラブは現在３つあり、定員が１４５人と大変規模が大きくなっています。今は学校に無理をお願いして空いている部屋を借りており、次の場所が見つ

かるまでの当面の間はお借りできるということで話はついています。
　地区公民館跡地を放課後児童クラブに活用するというのは１つの方法だとは思いますが、先ほど企画推進部長が説明したように、これから第１０次総合計画に盛り込む段階です。放課後児童クラブについては今現在困っている状況ですので、保護者会の皆様と一緒に、他の場所も検討しながら見極めていきたいと思っています。ご協力をお願いします。どこか良い所がないか、私どもも一所懸命探しているところです。また良い適地があればご協力いただきたいと思います。

（地元意見）
　今の受け入れは３年生までですが、来年４月からは６年生まで受け入れなさいということになっています。希望者のアンケートを取ったところ、預け入れたいという保護者が数十人単位でいました。来年度の受け入れは１０８人になる予定で、たちまち定員がオーバーします。定員を超えると、どういう線引きで受け入れを決めるかは私達の責任になってしまいます。入所希望者は、基本的に全員受け入れてあげたいのです。預かってほしいと言われたら預かってあげたいと思うのに、その場所がありません。
　新しい建物は、設計してすぐ建つわけではありません。具体的にもう４月からの問題なので、早急に来年度の場所の確保が必要です。どんなことでも手伝いますので、子ども達のためによろしくお願いします。

（教育委員会事務局長）
　ありがとうございます。我々も一所懸命、一緒に探したいと思います。よろしくお願いします。

（地元意見）
　年々高齢化が進んでおり、足腰が弱ってしまって買い物に行くのも億劫だという方を結構見かけます。そういう方にとって一番便利な交通手段は、「くる梨」です。「くる梨」が回ってくれれば非常に助かるのですが、今は一定のコースしか回りません。例えば奇数週と偶数週でコースを変えたり、利用頻度によって調整したり、買い物して帰る頃にもう一度車が回るようにするなど、細やかな配慮のある運営をしてもらえませんか。一度聞いたら、そういったことに関しては検討もほとんどされたことがなく、見直しの計画もないとのことでした。ぜひ、弱者の足を確保するという意味で、「くる梨」の見直しをお願いします。

（深澤市長）
　たしかに高齢化は進んでいます。そのため、公共交通を維持確保していくことは、今後非常に重要な課題となります。ただ正直なところ、偶数週と奇数週でコースを変える対応が、実際にうまく機能するのかなと思ったところです。コースを柔軟に変えるなど、細やかな配慮という部分については、少し検討してみたいと思います。現在の３コースでも、２０分おきに走行する制約があるため、少し難しい面もありますが、「くる梨」や路線バスを含めた公共交通を維持確保していかなければなりませんので、その中で検討、研究をさ

せていただきたいと思います。

（地元意見）
今、「くる梨」は駅で乗り降りができますが、市役所の新庁舎が駅裏にできた場合に、あそこまで歩けというのは非常に酷です。だから、城北地区を中心として中央病院、城北地区、行徳、そして新庁舎のできる駅裏周辺を通る新路線を考えてほしいです。

（深澤市長）
市役所の新庁舎が仮に駅南にできることになれば、おそらくまちの様相も変わってくると思います。その中で、「くる梨」の相応しいコースでの運行ということは、当然検討していかなければならないのではないかと思います。

（地元意見）
城北地区の敬老会の対象人数は、７７０人います。毎年１０名ずつ増えてきて、数年後には８００人に上り、高齢者ばかりのまちになります。鳥取消防署東町出張所が新しくなりますが、安全安心のため、救急車とまでは言いませんので、鳥取市北部に消防署を１か所作っていただきたいです。東部広域の長である市長ならできると思います。市はいつも、川の向こう側とこちら側という表現をして、何かあった時に橋が落ちたらどうするのだと言いますが、この辺りには袋川を渡った久松山側にしか消防署はありません。橋があると、こちらには来ません。城北地区、あるいは浜坂地区や中ノ郷地区には、どこから消防車や救急車が来るのかということをよく検討し、中央病院に近いこの地域に消防署を作ってほしいです。また、これは県の管轄になると思いますが、安心のためにも交番を設置してほしいと思います。即答はいりません。

（深澤市長）
即答は不要とのことですが、少しだけお答えさせていただきます。現在、東町出張所には救急車が配置されていませんので、まずは東町出張所への救急車の配置を実現したいと考えています。鳥取県東部には現在１２署所ありますが、どういう配置が望ましいかなどについて、１市４町で作った検討会で一緒に考えています。現時点では、基本的には現在の配置で十分カバーできるのではないかとのことですが、まちの様子も変わってきますので、消防署所の耐震改修や改築等に併せて検討を続けていくことになると思います。橋も落ちないようにしていかなければいけないと思いますが、東町に救急車が配置できれば出動態勢も改善していくと思いますので、まずはできるところから進めさせていただきたいと思います。

（地元意見）
消防車や救急車は、どれだけの時間で目的地に行けるのですか。逆に言えば、どれだけの時間の所に消防署があればカバーできるのでしょうか。私が聞いたところでは、消防車は１ｋｍ１分で計算するということなので、初期消火の間に消防車が来ることができる場所に消防署が設置されているかどうかを検証して、設置場所を考えてほしいです。救急車

も、通報があってどれくらいの時間に出れば人が救われるのかを検討して場所を決めなければ、ただ作りました、ありますよでは話にならないと思います。人の命、財産に関わることなので、真剣に考えてほしいです。

（深澤市長）
ご意見ありがとうございます。検討会はそういった視点で作っています。引き続き検討していかなければならないと思っています。

７　市長あいさつ

本日はお忙しい中、このように多くの皆様にご出席いただき、本当にありがとうございます。改めて感謝申し上げたいと思います。また、多岐にわたりご意見、ご提言をいただきました。すぐにはできないこともあると思いますが、できる限り皆様のお考えを大切にして、しっかり対応させていただきたいと思っています。

また、城北地区の皆様の長年のご要望である２つの施設につきましても、第１０次総合計画に盛り込む予定で来年度から作業にかかります。そこでしっかりと位置付けをし、できる限り早い段階で事業に着手できるよう、努力させていただきたいと思っております。

この地域づくり懇談会は２年に一度の開催ですが、今後も皆様と一緒に、将来に向けた鳥取市のまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げますとともに、ご参加いただきましたことに重ねて心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。